

政策分野 1.1 大学

※下線の箇所は第1次案からの変更箇所です。

～大学の集積が都市の活力を支え高めるまちをめざす～

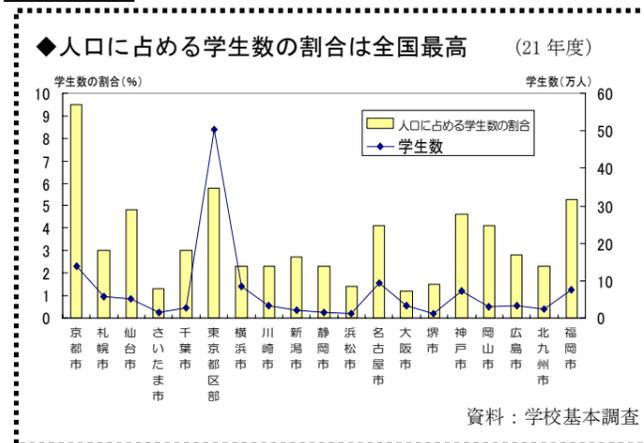
基本方針

悠久の歴史、伝統的な文化・芸術、最先端技術等の京都の魅力とともに、「大学のまち京都」を発信し、国内外の学生をより多く受け入れ、先見性や創造性、卓越した指導力をもつ人財を育成する。また、集積された大学の知を新産業の創出や芸術文化の創造に生かすことにより、魅力と個性にあふれる「大学のまち・学生のまち」をめざす。

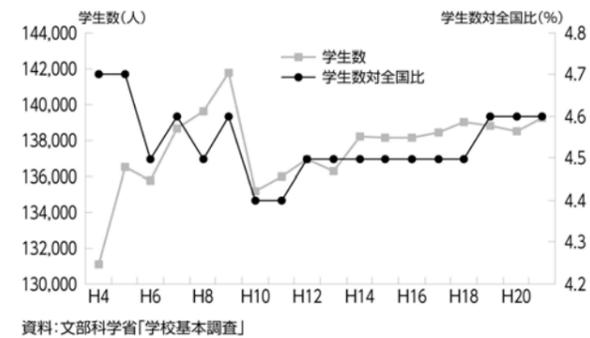
現状・課題

- 少子化の進展による学生数の減少や、国際的な大学間競争の激化により、大学の経営環境は厳しさを増している。京都市では、大学コンソーシアム京都を設立し、「大学のまち京都」のシンボル施設であるキャンパスプラザ京都を拠点として、大学連携の力を生かした先駆的な取組を展開し、成果を上げてきたが、今後さらに、京都ならではの講義や伝統文化に触れる機会等、京都で学ぶ魅力を高める必要がある。
- 国の「留学生30万人計画」に連動して、京都市においても、大学と連携して、留学生の受入体制の整備、受入気運の醸成等、留学生の受入拡大に取り組む必要がある。
- 他都市に例を見ない人口の約1割に当たる学生のエネルギーが高まり、地域活動に生かされ、まちの活性化につながることで、京都のまちの発展の原動力である。さらに、京都は学生にとって、地域社会を支える人財として、社会人に求められる「人間力」を涵養する舞台となる必要がある。
- 京都経済の活性化に向けた、産学公連携の強化、大学教育における地域体験型授業の促進等、大学での取組を地域の課題解決やまちの活性化につなぎ、学生が社会で活躍できるような、大学と地域が連携するしくみづくりが望まれる。

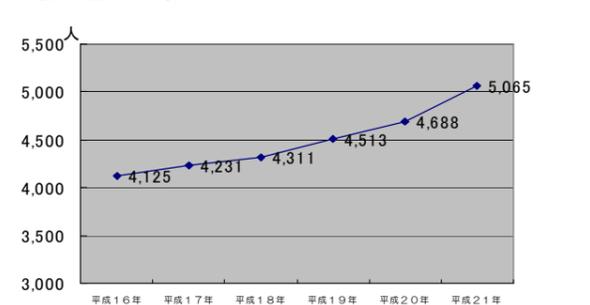
グラフを変更



◆京都市の学生数は13万人台を推移 学生数対全国比は増加傾向



◆留学生数は増加傾向



みんなをめざす10年後の姿

1 京都ならではの「学びの環境」が整った、憧れの「大学のまち」

個性あふれる大学の集積と先進的な大学コンソーシアム京都の取組により「学びの環境」が充実していることに加えて、伝統的な文化・芸術等に触れる機会に恵まれていることから、世界中の学生にとっての憧れの「大学のまち」となっており、卒業後も住み続けたいまちとなっている。

2 世界中から留学生が集まり、国際社会で活躍する人財が育つまち

世界中に京都のまちや大学の魅力が発信され、高度な教育研究機能に加え、生活環境が充実していることから、世界中から留学生や研究者が集まっている。これにより、大学を通じた国際的な交流が広がり、国内外の若者が歴史的・文化的環境を楽しみながら切磋琢磨し、国際社会で活躍する、京都大好きな人財が育っている。

3 世界に貢献する学術研究都市京都

京都の各大学における高度な学術研究の成果は多岐にわたり、京都地域のみならず日本、さらには世界に貢献している。

4 まち全体で育てた学生の力による、活気あふれる京都

学生の社会貢献活動の支援や学生と地域、NPO等との交流の促進、産業界と連携した、社会・就業体験の機会の充実など、オール京都によるひとつづくりのシステムが構築され、学生の「人間力」が向上するとともに、学生のパワーが生かされて地域が活性化している。

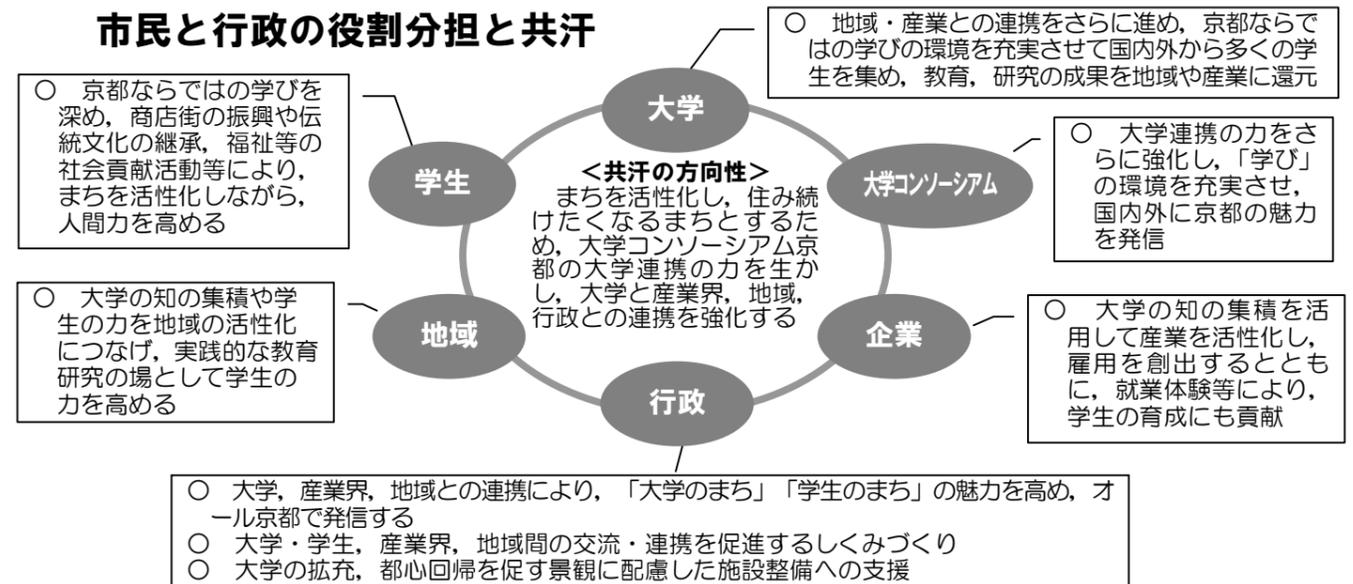
5 京都の発展を支える産学公地域連携が進んだまち

大学の知の集積を生かし、ベンチャー企業が育ち新産業・知恵産業が創出され、京都の産業界が活性化し、学生の雇用へとつながっていると同時に、大学が、京都のまち全体を教育研究のフィールドとして学生を育てながら、このことが地域の発展にもつながっているなど、産学公地域連携がますます進んだまちとなっている。

<参考>政策指標例

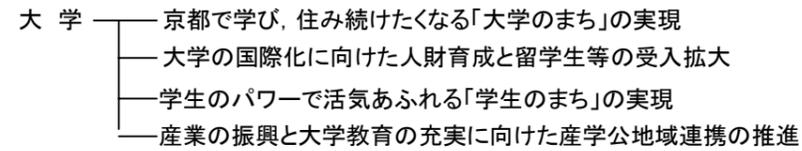
- ◆学生数 (全国の学生数に占める割合) 4.6% (13万9千人) (H21) → 5.0% (14万5千人)
- ◆留学生数 4,688人 (H20) → 10,000人 (H29)

市民と行政の役割分担と共汗



推進施策

施策の体系



1 京都で学び、住み続けたい「大学のまち」の実現

(1) 大学連携の力を活かした「学びの環境」の充実

世界中の学生が、京都で学びたい「大学のまち」を目指し、個性あふれる大学の集積を活かした大学コンソーシアム京都による先進的な取組を更に進め、インターネットによる海外との遠隔授業や単位互換制度への活用、教職員の能力向上の取組強化や、伝統的な文化・芸術を活かした京都ならではの学習プログラムを創出するなど、「学びの環境」を充実する。

(2) 大学のまちの推進のための大学への支援

大学施設の拡充・市内への回帰を促進するため、京都のまちで更に多くの学生が学べる教育環境の充実に向けて、市有地の活用も含めた総合的な支援を行うとともに、キャンパスプラザ京都を活用した大学連携への支援を行う。

2 大学の国際化に向けた人財育成と留学生等の受入拡大

大学の国際化に向けて、各大学独自の取組に加えて、海外の大学コンソーシアムとの交換留学プログラムの開発等により、国際社会で活躍できる人財育成を進める。

また、海外への「大学のまち京都」の魅力発信を進めるとともに、留学生や研究者が京都で安心して満足な生活を送ることができるよう、暮らしの支援を行うなど生活環境を整備することにより、受入拡大を図る。さらに、留学生生活の充実と京都との絆を深めるきっかけづくりとして、留学生と日本人学生との交流促進や京都の文化芸術に触れる機会を提供する。

3 学生のパワーで活気あふれる「学生のまち」の実現

人口の約1割に当たる学生のパワーによってまち全体が活性化している「学生のまち」を実現するため、社会貢献活動やまちづくり活動をはじめとする未来の京都づくりにつながる学生の主体的な活動を、活動拠点や情報の提供、大学の垣根を超えた学生の交流促進等により支援する。

4 産業の振興と大学教育の充実に向けた産学公地域連携の推進

(1) 産業の振興による学生の雇用の創出

大学の知の集積を活かして、ベンチャー企業の育成や京都特有の産業の振興と技術の継承、コンテンツ産業等の新産業・知恵産業の振興を産学公連携のもとに推進する。また、産業界と連携し学生の社会・就業体験の機会を充実することにより、産業の振興と学生の雇用創出を図る。

(2) 大学教育の充実につながる大学と地域との連携の強化

大学が展開する、京都のまち全体を研究の実践、体験の場とする教育活動が、学生が社会人として活躍していく上で必要な力を培う機会の拡大と、地域の発展に結び付くよう、先進・成功事例の発信等により、大学と地域、NPO等の連携強化を図る。

関連する分野別計画

大学のまち京都・学生のまち京都推進計画（平成21年度～平成25年度）